

景気ウォッチャー調査・近畿地域結果(令和 8 年 7 月)

～中東情勢の影響は残るも、気温効果等で現状判断は改善～

- 景気ウォッチャー調査・7 月調査の近畿地域の結果は、現状判断が 44.3 と前月比で 2 か月ぶりの上昇(+2.0 ポイント)となった。ただし、好不調の判断の目安となる 50 は 19 か月連続で下回っている。一方、先行き判断は 43.4 と、小幅ながら 3 か月連続の上昇(+0.1 ポイント)となった。
- 足元の景気については、中東情勢の混乱による影響が、原油や関連製品の価格高騰を中心に続いており、幅広い業界からコストアップ等に関する声が聞かれる。その一方で、今月は気温上昇によるプラス効果がそれを上回る形で推移している。百貨店や家電量販店などで夏物の販売が増加するなど、小売関連を中心に売上の押し上げ要素となっている。インバウンドに関しても、中国人客の減少が続く一方、円安の追い風や中国以外からの増加で堅調な推移が続き、百貨店などでは関連売上の増加がみられる。
- そうした中、かねてからの物価の上昇傾向が、中東情勢の影響でさらに加速しつつある。結果として、消費者による節約志向もさらに強まっており、スーパーや家電などを中心に、幅広い業界で購入量の減少などが指摘されている。
- 景気の先行きについては、インバウンド消費が今後も増加するとの期待は大きく、百貨店を中心に売上へのプラス効果を予想する声が聞かれる。また、株価の上昇が消費に好影響を与えるとの声も一部で上がっている。
- 一方、中東情勢の影響については、コストの上昇を中心に今後も継続するとの見方が根強く、企業活動のみならず、消費に対する悪影響への懸念の声も多く上がっている。企業活動に関しては製造業関連からの声が多いほか、消費については百貨店を中心に厳しい声が多い。また、残暑による消費への悪影響も懸念されている。
- 物価の上昇については、その中東情勢の影響が拍車をかける形となり、今後の急騰に対する懸念が高まっている。それに伴う節約志向の強化への警戒の声に加え、さらなる価格転嫁は困難とする声も多く聞かれる。

「中東情勢による商品不足」関連のコメント(現状判断)

家計動向関連	変わらない	一般小売店〔書籍〕(管理担当)	・中東情勢の影響による急激な価格変動については、以前と比べて沈静化しつつある。
		家電量販店(営業担当)	・中東情勢が落ち着かないため、原油不足の影響が続いており、10月から値上げを行うメーカーもある。
		遊園地(経営者)	・原油関連の問題がなかなか解決せず、消費への影響が懸念される。
	やや悪くなっている	その他専門店〔ガソリンスタンド〕(経理担当)	・ガソリンの出荷量は前年比で5%減っている。これは雨が多かった影響であり、価格面や景気の影響によるものではない。中東情勢による影響で原油価格は上昇しているものの、政府の補助金もあり、影響は少ない。
		都市型ホテル(客室担当)	・引き続き中東情勢は先がみえないほか、中国からのインバウンドの個人客も減少している。また、当地域だけが連日の酷暑日となるなど、負の循環が続いている。
		その他住宅投資の動向を把握できる者〔不動産仲介〕(経営者)	・円安の進行や原油価格の上昇など、中東情勢の変化が心理的にも経済的にも悪影響を及ぼしている。

企業動向関連	変わらない	建設業（経営者）	・中東情勢が落ち着く見込みのないまま、建設資材の高騰や不安定な納期が続いている。長期の作業所では工期にも大きな影響が出ており、発注者との厳しい交渉が続いている。契約後の建設資材価格の高騰も大きな問題となっている。
	なっている やや悪く	窯業・土石製品製造業（管理担当）	・物価の上昇が続いているが、実質賃金の上昇が追い付いていない。また、円安の進行も加速しており、輸入品の価格に影響が出ているほか、中東情勢も不透明であるなど不安要素が多い。
		電気機械器具製造業（経理担当）	・電子部品や石油由来製品の価格が高騰し、入手も困難であるなど、プラスの要素が見当たらない。
雇用関連	変わらない	職業安定所（職員）	・中東情勢の変化による影響で、建設業や塗装業では薬剤などの入手が困難となり、仕事ができないといった声がある一方、こん包や運送関連では取扱数が増え、忙しいという声がある。
	案っている やや悪く	学校〔大学〕（就職担当）	・依然として中東情勢の変化が終息に向かう気配はなく、むしろ摩擦が激化している。それに伴い、原油に関する生活物資の価格が高騰している。

「気温の上昇」関連のコメント（現状判断・家計関連）

家計動向関連	良くなっている	百貨店（サービス担当）	・今年も梅雨明け以降は猛暑が続いているが、地下の食料品や総菜売場の改装効果のほか、新規の催事イベントの好調により、売上は前年比で2けた増と好調に推移している。また、機能性素材を使った夏物衣料や、基礎化粧品を中心とした季節商材への需要も堅調に推移している。
		家電量販店（店員）	・例年以上の暑さとなり、エアコンを中心とした季節商材の売行きが大幅に伸びている。
		家電量販店（人事担当）	・梅雨明け以降の急激な猛暑により、エアコンを始めとする、季節商材の販売が急激に伸びている。
	やや良くなっている	百貨店（売場マネージャー）	・来客数は前年から増加傾向にあり、購買客もそれに比例して増えている。猛暑の影響でやや鈍化している部分もあるが、3か月前からは明らかに上向いている。
		百貨店（販促担当）	・今月は梅雨明け後に気温が一気に上がった。6月は気温が低く、季節商材が苦戦していた分、盛夏商材も活発に動いている。機能性商材のほか、暑い時期は調理を避けたい揚げ物などが好調に動いている。
		百貨店（マネージャー）	・3か月前と比べて、円安の進行や地域的な空港関連の要因もあり、インバウンド消費が前年比で65%増となっている。富裕層向けの売上も前年比で2けた増を維持しており、特選品や美術品、宝飾品など、財産としても価値のある商材が人気となっている。一方で、中間層は暑さの影響もあり、遮熱や美白関連、クールミストなどの商材に加え、化粧品や婦人用品の動きが好調である。そのなかでサンダルだけは不調であり、スニーカーへのシフトがみられるが、全体的には様々な指標が良くなっている。
		スーパー（店員）	・梅雨明け以降は暑さが続いているため、スイカがよく売れている。天候要因で野菜価格は上昇しているが、それでもよく売れている。
		コンビニ（経営者）	・最近はお米よりも東南アジアや中近東からのインバウンドが2倍近くに増えており、販売量が増えている。梅雨が明けて急激に暑くなったため、飲料の販売が約20%増えている。
		コンビニ（経営者）	・猛暑による影響が、飲料や食料品の売上を押し上げている。
		コンビニ（経営者）	・3か月前よりも夜間の売上が伸びている。暑くなるとともに祭りの時期も近づき、居酒屋などでの集まりも増えることで、客足が増加している。
		観光型旅館（団体役員）	・当地は海水浴シーズンでにぎわっている。晴天続きで期待しているが、猛暑が響いているほか、物価の上昇や景気の不透明感による影響も受けている。
	変わらない	一般小売店〔呉服〕（店員）	・呉服を扱っているが、暑い時期は少し着ただけでもクリーニングに出す客が多いが、今年は少ないため、着用の機会が少ないとみられる。
		百貨店（販売推進担当）	・株価や金相場が落ち着いてきたこともあり、今まで売上をけん引してきた宝飾品や美術品、金製品の動きが鈍化した一方、今月になって急に暑くなったため、衣料品や雑貨などの季節商材は好調に転じた。お中元も前年比で微減となったが、当初の見直しからは上向いており、食品全体では微増となっている。
		百貨店（商品担当）	・直近は、気温の上昇とともに夏物衣料が好調であるほか、インバウンド消費も、円安効果が中国人の減少による悪影響を上回り好調に推移している。また、株価の上昇で富裕層の外客客による売上も増えているが、厳しい暑さで消費意欲が徐々に減退傾向となっている。涼しさを求めている来店を増やすために、催事や子供向けイベントを強化する予定である。
		スーパー（店長）	・衣料品は、気温や天候の変化に連動して動いている。
		コンビニ（店長）	・暑い日が続いており、飲料がよく売れている。
		コンビニ（店員）	・異常な暑さによる食欲不振で、弁当の売上が落ちている。その代わりにアイスやドリンク類などの冷たい商品がよく売れているため、全体的に大きな変化はない。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・真夏日が続き、カウンセリング化粧品を中心に、スキンケア用品やUV関連、制汗剤などの化粧品や化粧品雑貨が好調となっている。一方、食品や日配品などの生活必需品は横ばいで、医薬品や健康食品、衛生用品は減少が続いている。3か月前と比較して客単価は上昇しているが、猛暑の影響で来客数の伸びない状況が続いている。

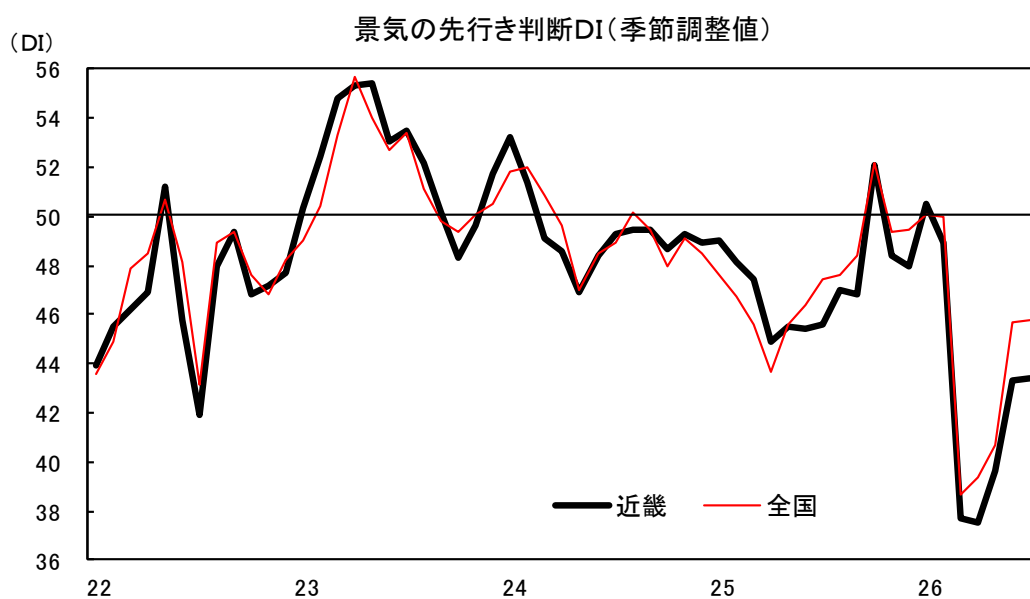
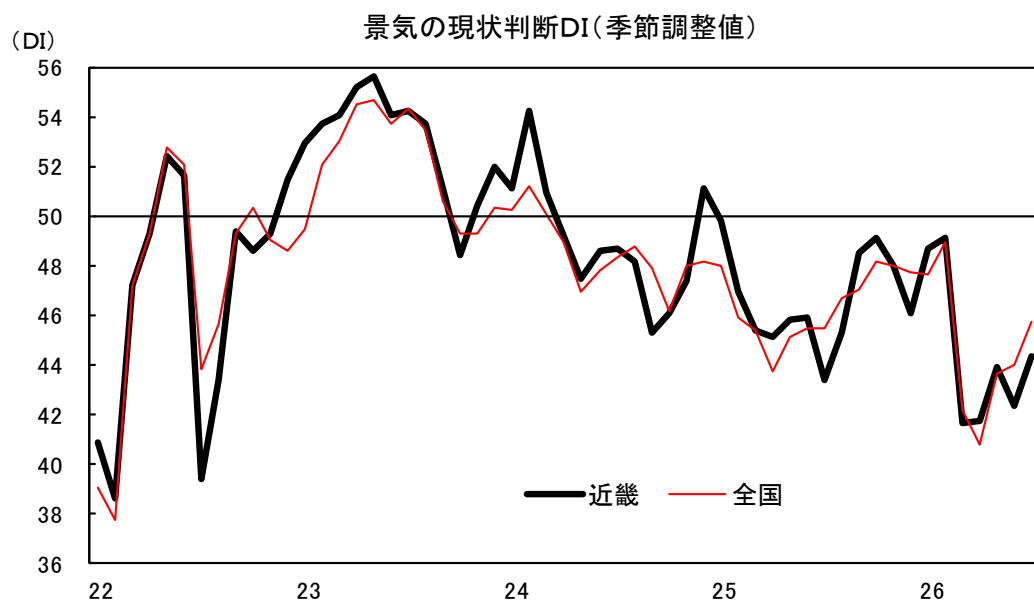
家計動向関連	変わらない	高級レストラン（スタッフ）	・梅雨明け後はすぐに猛暑となり、ランチの予約は少なめであるが、ディナーは回復してきている。
		その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・4～6月にかけては、駅ナカの動線の変化による影響で、売上は前年比で80%台と厳しい動きが続いていた。7月に入って動線の変化による影響が一巡し、前年を上回る日もあったが、3連休頃からは猛暑の影響で再び伸び悩んでいる。
		観光型旅館（経営者）	・海岸沿いの温泉旅館であり、近年は海水浴客が減少傾向にあるが、今年は猛暑の影響で特に減っている。海水浴客は前年比で10%減少しており、それに伴って宿泊客も減少傾向にある。
		旅行代理店（支店長）	・猛暑や物価上昇の影響で、外出を控える動きが続いている。
		旅行代理店（役員）	・例年であれば、夏休みの旅行の間際予約が入る時期であるが、今年は7月に入って急に猛暑となったため、客の出足が鈍い。客との会話でも、厳しい暑さで物事を考える気力がないという声は多く、旅行などのし好品に対する消費は芳しくない。
		テーマパーク（職員）	・暑さの影響により、客の間で外出を控える動きが目立っている。
	やや悪くなっている	一般小売店〔時計〕（経営者）	・梅雨明けが意外に早く、急に猛暑が始まった頃から明らかに客足が遠のいている。目の前で人が倒れたり、救急車で運ばれたり、危険な暑さを実感している人が多い。物価の上昇や猛暑が、景況を引き下げている大きな要因である。
		一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・夏枯れの時期に入り、例年以上に商品全体の動きが悪いが、暑さ対策やギフト関連の商材など、調子の良い商品もあるため、何とか持ちこたえている。
		スーパー（社員）	・店舗の近くに住んでいる客は、毎日来店し、中には1日に数回来店する人もみられるが、今夏の暑さの影響で、日中の客が少なくなっている。
		スーパー（企画）	・梅雨が明け、気温が上がっているため、売上は増加傾向にあるが、前年度と比べると勢いに欠ける。自治体によるプレミアム付商品券の効果も前回は下回っているなど、客の節約志向が強まっている。
		都市型ホテル（客室担当）	・引き続き中東情勢は先がみえないほか、中国からのインバウンドの個人客も減少している。また、当地域だけが連日の酷暑日となるなど、負の循環が続いている。
		その他レジャー施設〔飲食・物販系滞在型施設〕（企画担当）	・前年も猛暑であったが、今年は更にひどく、消費者の出控えがみられる。
	悪くなっている	美容室（店長）	・当店は高齢の常連客が多いため、暑さの影響で今月はキャンセルが相次いでいる。
		衣料品専門店（経営者）	・7月に入って連日暑さが続いていることで、来客数が低迷している。また、物価の上昇によって財布のひもも固くなっている。

「残暑」関連のコメント（先行き判断・家計関連）

家計動向関連	良くなる	百貨店（サービス担当）	・夏休みのイベントとして、アニメのコラボレーション企画を導入する予定である。来客数が増えることで、売上の増加が期待できるほか、猛暑対策商材の展開を増やすことで、前年の実績を上回ることが期待される。
		スーパー（企画担当）	・気温の上昇に伴い、夏物商材の販売が一気に増加し、前年を上回る売上となっている。8月は夏休みやお盆などの季節的な催事も多く、年間では12月に次ぐ売上となるだけに期待される。
	やや良くなる	コンビニ（店員）	・外出機会が増えるなか、暑さのためアイスやコーヒーなどを気軽に買えるコンビニは、利用の機会が増える予想される。既に来客数はかなり増えてきている。
		高級レストラン（スタッフ）	・猛暑が少し落ち着けば、昼夜共に、売上の回復が期待される。
	変わらない	一般小売店〔事務用品〕（経営者）	・とにかく暑いため、商売どころではない。売る方も買う方も動きが悪く、気持ちも乗らない。
		一般小売店〔菓子〕（営業担当）	・これだけ暑い日が続けば、冷やして食べるゼリーよりも、飲料やアイスの売上の方が多いい。
		百貨店（外商担当）	・例年以上に厳しい気象条件が予想され、特に酷暑日が多い状況では、来客数の減少が心配される。秋物商材の新作も、動きが鈍くなると予想される。
		百貨店（商品担当）	・中東情勢が不透明ななか、原料価格や物価の上昇による需要の減退が予想される。また、今後は暑さが長引くことで消費意欲が減退するほか、物価の上昇で海外旅行を含む旅行需要が減少し、関連商材の販売も不振となる。さらに、残暑による秋物衣料の販売不振も予想される。
		コンビニ（経営者）	・3か月先も気温は余り変わらないようである。飲料の販売量を現状並みに維持するほか、冷凍食品の売行きも良いため、冷凍ケースを3面から4面に増やして販売を行う。
		コンビニ（経営者）	・猛暑が続くため、引き続き一定の需要が見込まれる。
		コンビニ（店員）	・この先も厳しい暑さが続くため、大きな変化はない。
		家電量販店（人事担当）	・気温が高くなり過ぎることで、客の外出の減少が懸念される。
		その他専門店〔医薬品〕（管理担当）	・夏物商材やボディケア用品は順調に推移しているが、季節商材を除けば横ばいか、減少傾向が続いている。気温の上昇により、飲料などでは売上の増加が見込まれるものの、食品の値上げも続いているなかで、食品や日配品などの売上は現状の水準を何とか維持したい。全体としては大きな上昇要因は見当たらないが、UV関連や制汗剤などの夏物商材では、化粧品や化粧雑貨の好調が予想される。

家計動向関連	変わらない	旅行代理店（役員）	・ 9月までの猛暑の予想や、消費税率引下げ議論の停滞感などがある一方、客の購買マインドを刺激するイベントもないため、状況が好転する期待は薄い。
		テーマパーク（職員）	・ しばらくは外出を控えるような暑さが続く。
		その他サービス〔マッサージ〕（スタッフ）	・ アロマオイルを使ったマッサージで服を脱ぐため、寒い時期は来客数が減少する一方、暑い時期は増加するが、9月、10月はそれほど変わらない。
	やや悪くなる	一般小売店〔書籍〕（管理担当）	・ 異常な暑さにより、外出や消費を控える動きが出てくる。
		百貨店（宣伝担当）	・ 年々猛暑が厳しくなり、季節も四季から二季へと変化している。これまでは8月末から秋物商戦が始まったが、10月頃まで衣替えをしない人も増えている。季節商材を中心にメーカーも生産を抑制しているため、苦戦が予想される。
		百貨店（販促担当）	・ 一気に猛暑となったが、仮に10月頃まで暑さが続けば、消費に悪影響が出る。秋物商材の展開が難しくなるなか、秋色夏素材の商材や、秋の食材を使ったさっぱりメニューの提案など、気候に応じた提案の工夫が求められる。
		衣料品専門店（店員）	・ 閑散期に入るほか、気温の高い日が続くため、購買意欲は低下する。
		家電量販店（店員）	・ 暑さによる需要が短期間に集中しているため、今後は揺り戻しがある。
		住関連専門店（店員）	・ 物価高対策で政府に新たな動きはない一方、猛暑で電気代の負担は増えているなど、景気が良くなる要素はない。
		一般レストラン（経営者）	・ 猛暑が毎日続いているほか、商品の値上げで生活に影響が出ているなど、外食の需要が減っている理由が多い。また、期待していたプレミアム付商品券の利用も前回ほどはみられない。今後の消費税率引下げに向けて、外食の大手企業はテイクアウトの拡大に動いているなど、資金力のある企業が生き残る、弱肉強食の状況になりつつある。今後、外食産業で業況の回復が進むかどうかは疑問である。
		その他飲食〔洋菓子〕（管理担当）	・ 例年以上の猛暑が見込まれることから、厳しい状況が続くと予想される。
		都市型ホテル（営業担当）	・ 人件費や光熱費、配送費などの経費がどんどん増えているほか、猛暑によるレジャー消費の鈍化など、将来への不安による買い控えもあり、景気が良くなる材料は見当たらない。
		旅行代理店（役員）	・ 猛暑の影響もあり、夏休み期間の予約は鈍化している。また、物価の上昇に伴う家計負担の増加も、家族旅行の計画に大きく影響している。さらに、円安の進行や燃油サーチャージの高止まりが続くなか、海外旅行の需要回復を後押しする要因が見当たらない。

(D I の推移)



(近畿地域のDI)

		24年					25年							26年												
		7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	4	5	6	7
現状判断	近畿	48.7	48.2	45.3	46.1	47.4	51.1	49.8	46.9	45.4	45.1	45.8	45.9	43.4	45.3	48.5	49.1	48.0	46.1	48.7	49.1	41.6	41.7	43.9	42.3	44.3
	(全国)	48.3	48.8	47.9	46.2	48.0	48.2	48.0	45.9	45.4	43.7	45.1	45.5	45.5	46.7	47.0	48.2	48.0	47.7	47.6	48.9	42.2	40.8	43.6	44.0	45.7
先行き判断	近畿	49.3	49.5	49.5	48.7	49.3	48.9	49.0	48.1	47.4	44.9	45.5	45.4	45.6	47.0	46.8	52.1	48.4	48.0	50.5	48.9	37.7	37.5	39.6	43.3	43.4
	(全国)	48.9	50.2	49.5	48.0	49.1	48.5	47.6	46.7	45.6	43.7	45.6	46.4	47.4	47.6	48.4	52.2	49.4	49.5	50.1	50.0	38.7	39.4	40.7	45.7	45.8

※季節調整値